

九州と北海道、その違いの連続に衝撃を受ける

「お客さん達、どちらから来られたとですか？」

昨年末に九州ツアーをした。佐賀県で行なわれたスガノ農機が後援する有機物循環農法研究会（野中保会長）の九州沖縄支部冬季研修会に参加するために、北海道の男3人がイブの日にケンタッキーフライドチキンに立ち寄ってからタクシーでホテルに移動中、ある話に花が咲いた。女性を暴力から守るために出来たDV法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）の話だ。内容はこのようなものだった。愛する妻から蹴りが入ったことはあるかどうか。聞くと、北海道のほとんどは且那は程度の差はあれ、蹴りの被害者のみならず、言葉の暴力の被害を受けているようだ。中には酔っぱらって家に帰ったところ自宅玄関のカギはロックされ、家に入れないままトラクターの中で一晩過ごしたなんて、かわいそうな例もある。

そんな話を黙って聞いていたタクシーの運転手さんがマジ顔で聞いてきたのである。運転手さんは当初、我々の話を全く信じていない様子で、その様なことがあるはずがない！とまで言い切っていた。

彼は25歳でタクシー業界に入ったところ、給料は安かったが家に帰れば、ビールとおつまみが必ず用意してあったと語った。それを聞いていた私たちの方がそんなことがあるのか逆に驚いてしまった。

こんなこともあった、有機物循環農法研究会である農業経営者が女性新入社員を呼び捨てで呼んでいた。普通新入社員でなくても、多くの場合、分け隔てなく「さん」「くん」を付けるのが北海道では普通だと思っていたが、九州男児はその様なことはしなかった。男子としての威厳を保つためか、女性が男性に対して従順なのか。その後、彼の所に行くことになったのだが、彼の住む町は私の町と比べて、少し人口が多いくらいなのにラブホテルが15軒以上あった。それに引き換え、わが町はゼロ。九州の人達はそれほど……。

似たようなことが本州でもあった。私たちが訪れると、御主人が私たちの到着を告げるために奥様に「早く挨拶に来んか！」と言っている

Vol.26 有雪文化と無雪文化



宮井能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンドイヤ代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

Illustration by Kazushige Akita

た。その表現に驚いたと言うよりも、もしそのようなことを北海道で発言したら、お客が帰った後はイラク、アフガン戦争よりも地獄を見ることになる。つまり蹴りではすまされない重大な事件になる。

この法律をよく読むと前文には「配偶者からの暴力の被害者は、多くの場合、女性であり……」とあるが、DV法が出来

オレにも 言わせる!

北海道長沼発 ヒール宮井の憎まれ口通信

た時には、現実（男子被害者）に適した運用に感謝したいと、北海道の多くの旦那様は大喜びしただろう。

なぜこのような違いが北と南で起きるのか。一番の違いは気象条件だろうか。北海道は他の府県に比べて気温が低い。まだ生きている人達ばかり調べてもつまらないので、ネットで各都道府県別の凍死者数を調べて見たところ、調べきれなかったところよりも、その様なことを発表していないようだ。諸外国を見ると寒いはずのスウェーデンよりも暖かいポーランドやドイツ、著しいのはあのフランスに凍死者が多いのにびっくりした。考えて見れば当たり前である、寒いから「家」に入るのである。北海道の家に入れば凍死することはないが、九州や四国の一軒住宅では全室暖房はまだまだ普及していないので、北国の人間にとつてとても寒く感じるし、酔っぱらって寝過して本当に凍死してしまうかもしれない。私の知る限り、地元北海道で凍死したなんて言うことを聞いたことはない。たぶん東京・上野の方が凍死者の数は多いのだろう。

そうなるとう人の行動パターンは寒さだけでは説明しきれないことに気がついた。もしかして足りないのは他にあるのかも。

根雪と言う言葉がある。気象庁の

専門用語では長期積雪と呼び、秋から冬になり雪が降り、ある一定期間雪が解けない状態をいう。信じられないことだがデータ的には福岡のある地区が根雪の南限になるらしいが、ある一定以上のエリアだと、やはりもっと北になる。

高校野球ではこの場所から北の地域は優勝できない、と言われていてことでも有名な福島県南部、白河の関が根雪の南限だと聞いたことがある。現実には北海道の高校が優勝しているが、それは室内練習場があるからで、白河の関付近の高校ではその様な施設がないので、練習不足で勝ち進むことができないのかも。

話を雪と人との関係に戻そう。冬の間、雪があると農産生産者の農作業は全くなくなるが、札幌などの都市では毎朝ご主人さまの出勤時、「行つてらっしゃい♡」と送った後、女性はプラスチック製スコップまたは「ママさんダンブ」と呼ばれる大型スコップで玄関を除雪することになる。そうすると、腕っ節は強くなるのは当たり前、プラスチック製のボードに子供や買い物に乗せて歩くことも珍しくない。こんな筋トレ、毎日やれば、どんなキャシャな女性も強くなりますよ。結果、家中の勢力分布図に微妙、いやはつきりとした色分けができる。

北海道に日本文化を無理に導入しても合理的ではない

男は外で稼ぎ、女は家を守る。どうですか九州のみなさん、男が家を守るのではなく、雪のある地域では女が家を守ることに耐えられますか？ 雪のない地域に行くと必ず言われるのは「北海道って寒くて雪があつて大変でしょう？」だ。だいたいの人は自分が住んでいる所よりも寒いところには行きたがらない。たぶん日本では住宅、生活環境が変わり、北に行くとならない生活を送ると思つているのだろう。

考えて見ればおかしな話だ。北海道に住むのは嫌だがニューヨークはOKなんですよ？ あそこは函館くらの気温で、私にとっては温暖な地域だが本州の人達にとつてやはり寒い地域になるのだろう。でもこんなに米国嫌が多いのに函館よりもニューヨークなんですよね？

米国や北海道の家の中は全室暖房が基本なので、どの部屋にいてもシャツ1枚で歩き回ることが出来ますが、昔の家はリビングのみが暖かく、生まれてから7歳くらいまで住んでいた100坪を超えるレンガ住宅でさえトイレや寝室に暖房はなし、和室もあつたが暖房はなかった。だから、畳やふすま文化には小さ

いながら違和感を持った記憶がある。この様な北の地に人を物理的に暖かくさせない日本文化を持つてきても、住む人を幸せにすることはないのは明白であり、現在の住宅の設計自体が北米2×4方式を始めとする寒冷地の歴史の長い他国の影響を北海道が受け入れることに時間ばかりはかからなかった。

例としては決して良くはないが、1995年1月17日の兵庫南部地震で、多くの人命と財産が失われた。その後、被災者の皆さんが住宅を建てられ、その際多くで北米方式が導入された。実は私はこの数年前に自宅を改装した。地元の大工さん達は当初この北米方式を認めなかったが、兵庫南部地震で北米方式の住宅が全損ゼロの数字を見せつけられるとインチキが簡単にできる日本古来工法よりも、**簡単工法**の北米方式を認めざるをえなかった。

北海道から見ると、日本文化は雪（根雪）がない地域の文化で、それ以外の地域を否定することを前提に学校の教科書の歴史が作られ、そして日本人ができたのでしようか。で、あなたは全室暖房の有雪文化と、全室暖房のない無雪日本文化のどちらが好きですか？ もちろん私は全室エアコンの効いた金髪・ブルーアイの文化が大好きです。